

科目名	パソコン演習Ⅰ			方法	演習
担当教員	陸川 晃浩		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	パソコンの基本的な使い方、キーボードによる文字入力をマスターする。				
学習目標 （到達目標）	Wordによる文書作成が出来るようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウィネット Word2019クイックマスター サーティファイ Word文章処理技能認定試験3級問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	PCの基本的な操作		PCの基本操作(フォルダ管理、文書の保存等)		
2	PCの基本的な操作		PCの基本操作(フォルダ管理、文書の保存等)		
3	Wordの基本的な操作		Wordの説明、基本操作		
4	Wordの基本的な操作		Wordの説明、基本操作		
5	文字の入力と編集の基本操作		キーボードによる文字入力と編集の操作		
6	文字の入力と編集の基本操作		キーボードによる文字入力と編集の操作		
7	文書の編集		文書編集の基本操作		
8	文書の編集		文書編集の基本操作		
9	練習問題		問題集より出題		
10	練習問題		問題集より出題		
11	文書の作成		文字入力、文書の作成、編集		
12	文書の作成		文字入力、文書の作成、編集		
13	文書の作成		文字入力、文書の作成、編集		
14	模擬問題1		問題集より出題		
15	模擬問題2		問題集より出題		
16	模擬問題3		問題集より出題		
17	模擬問題4		問題集より出題		
18	模擬問題5		問題集より出題		
19	模擬問題6		問題集より出題		
20	模擬問題7		問題集より出題		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	ホームルームⅡ			方法	講義
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 卒業論文作成、研究 2. 英語スキルの習得（スタディサブリを用いた授業展開）				
学習目標 （到達目標）	基礎英語スキルの獲得及び就職進路に向けたビジネススキルの獲得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	SUCCESS、実践ビジネスマナー、スタディサブリ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボード学科実習説明・準備				
2	XGAMES実習・準備				
3	スタディサブリの使い方／インターンシップについて		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
4	ディクテーション／インターンシップ、企業訪問準備		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
5	ディクテーション／インターンシップ、企業訪問準備		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
6	シャドーイング／インターンシップ、企業訪問準備		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
7	シャドーイング／インターンシップ、企業訪問準備		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
8	シャドーイング／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
9	シャドーイング／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
10	シャドーイング／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
11	シャドーイング／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
12	シャドーイング／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
13	シャドーイング／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
14	リード＆ルックアップ／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
15	リード＆ルックアップ／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
16	リード＆ルックアップ／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
17	リード＆ルックアップ／就職活動について		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
18	瞬間発話プラクティス／成果発表準備		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
19	瞬間発話プラクティス／成果発表準備		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
20	瞬間発話プラクティス／成果発表準備		スタディサブリENGLISH、SUCCESS活用		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	コンディショニングⅡ			方法	講義
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スキー、スノーボードにおける外傷・障害について理解し、障害予防としてケア、コンディショニングの方法を身近な道具を使用し、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。前期はアライメントチェックを行い、自身に必要なケア、トレーニング、傾向を理解し、各関節におけるパフォーマンス向上に必要な基礎知識理解を目的とし、後期は障害に対してのセルフケアの方法理解を目的とする。				
学習目標（到達目標）	自分の体を知り、コンディショニング方法として、道具を使用したセルフケアの方法と、体に対しての基礎知識の習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版) ・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ディクテーション／卒業論文		スタディサブリENGLISH		
2	ディクテーション／卒業論文		スタディサブリENGLISH		
3	ディクテーション／卒業論文		スタディサブリENGLISH		
4	シャドーイング／卒業論文		スタディサブリENGLISH		
5	シャドーイング／卒業論文		スタディサブリENGLISH		
6	シャドーイング／卒業論文		スタディサブリENGLISH		
7	シャドーイング／卒業論文		スタディサブリENGLISH		
8	卒業論文				
9	卒業論文				
10	卒業論文				
11	卒業論文				
12	卒業論文				
13	卒業論文				
14	卒業論文				
15	卒業論文				
16	卒業論文				
17	卒業論文				
18	卒業論文				
19	卒業論文				
20	卒業論文				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考查60％（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40％（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			専門用語、ケアの正しい方法の理解、ポイントなど学習内容が非常に多く準備学習が重要となる。		
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンビックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	コンディショニングⅠ			方法	講義
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	20時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	人体の特徴、基礎栄養、障害予防方法、応急処置を学び、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。スポーツのケガを減らし、安全なスポーツ環境を作るために、スポーツ医学の知識（身体やケガの知識）を習得し①ケガの予防、②ケガからの競技復帰、③競技力の向上、に活かす。 パフォーマンスアップに必要な身体の特徴理解を深める。				
学習目標 （到達目標）	身体の基本知識、基礎ケア手法取得、応急処置の基本知識習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スポーツ医学検定公式テキスト２・３級、基礎から学ぶスポーツトレーニング理論				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	RICE処置・応急処置		実技あり、教科書		
2	ストレッチ		実技あり、教科書		
3	基礎栄養と水分補給		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
4	基礎栄養と水分補給		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
5	身体の特徴と基礎		基礎解剖学、可動域、関節の使い方		
6	身体の特徴と基礎		基礎解剖学、可動域、関節の使い方		
7	セルフケア		実技あり、コンプレッション、筋膜リリース		
8	怪我の予防・トレーニング		怪我を防ぐために		
9	怪我の予防・トレーニング		怪我を防ぐために		
10	怪我の予防・トレーニング		怪我を防ぐために		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価４段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンビックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	コンディショニングⅡ			方法	講義
担当教員	大橋一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	スキー、スノーボードにおける外傷・障害について理解し、障害予防としてケア、コンディショニングの方法を身近な道具を使用し、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。前期はアライメントチェックを行い、自身に必要なケア、トレーニング、傾向を理解し、各関節におけるパフォーマンス向上に必要な基礎知識理解を目的とし、後期は障害に対してのセルフケアの方法理解を目的とする。				
学習目標 （到達目標）	自分の体を知り、コンディショニング方法として、道具を使用したセルフケアの方法と、体に対しての基礎知識の習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版) ・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アライメントチェック（静的、動的アライメント、柔軟性）		姿勢評価を行う（半袖、半ズボン）カメラ、メジャー、FMSキッド ※フィットネスルーム		
2	解剖学・バイオメカニクス（人体の特徴と名称）①		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
3	解剖学・バイオメカニクス（人体の特徴と名称）②		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
4	基礎栄養①		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
5	基礎栄養②		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
6	怪我の予防		怪我を防ぐために		
7	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事（栄養、処置、リハビリ）		
8	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事（栄養、処置、リハビリ）		
9	トレーニング種類と組み合わせ		各部位のトレーニング方法、セット法		
10	トレーニング種類と組み合わせ方/ピリオダイゼーション		各部位のトレーニング方法、セット法、スケジュールの組み方とピークパフォーマンスの作り方		
11	頭位を位置する胸郭のスポーツにおける重要性について		実技あり、自身の滑走動画比較		
12	頸椎と呼吸法の関係性による柔構造と剛構造の違い		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
13	パフォーマンスを決める手と体幹の位置関係と発揮方法		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
14	骨盤のパフォーマンス向上におけるメカニズム①		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
15	骨盤のパフォーマンス向上におけるメカニズム②		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
16	スポーツ医学検定対策		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
17	スポーツ医学検定対策		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
18	スポーツ医学検定対策				
19	スポーツ医学検定対策テスト				
20	テスト				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考查60％（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40％（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			専門用語、ケアの正しい方法の理解、ポイントなど学習内容が非常に多く準備学習が重要となる。		
実務経験教員の経歴		スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンビックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年			

科目名	スケートボードⅠ			方法	実技	
担当教員		藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科		スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択		必修	単位数	—	時間数	280時間
授業形態		対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方		スケートボードの技術習得。ライセンス検定を受験し技術、知識を理解し相手に伝えられる力を身につける。動作解析ツールを活用し数値的、理論的分野を学ぶ。				
学習目標（到達目標）		JSA公認インストラクター資格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方、教材使用方法			アプリ、動作解析、カメラ操作		
2	前期スケートボード実技②			足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
3	前期スケートボード実技③			ライセンス検定		
4	前期スケートボード実技④			足裏センサー測定（1回/月）ライセンス検定		
5	前期スケートボード実技⑤			ライセンス検定検定		
6	前期スケートボード実技⑥			ライセンス検定		
7	前期スケートボード実技⑦			足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
8	前期スケートボード実技⑧			ライセンス検定		
9	前期スケートボード実技⑨			ライセンス検定		
10	前期スケートボード実技⑩			足裏センサー測定（1回/月）		
11	後期スケートボード実技①			ライセンス検定		
12	後期スケートボード実技②			足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
13	後期スケートボード実技③			ライセンス検定		
14	後期スケートボード実技④			足裏センサー測定（1回/月）ライセンス検定		
15	後期スケートボード実技⑤			ライセンス検定検定		
16	後期スケートボード実技⑥			ライセンス検定		
17	後期スケートボード実技⑦			足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
18	後期スケートボード実技⑧			ライセンス検定		
19	後期スケートボード実技⑨			ライセンス検定		
20	後期スケートボード実技⑩			足裏センサー測定（1回/月）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピックコーチ				

科目名	スケートボードⅡ			方法	実技
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	280時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードの技術習得。ライセンス検定を受験し技術、知識を理解し相手に伝えられる力を身につける。動作解析ツールを活用し数値的、理論的分野を学ぶ。				
学習目標 （到達目標）	JSA公認インストラクター資格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方、教材使用方法		アプリ、動作解析、カメラ操作		
2	前期スケートボード実技②		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
3	前期スケートボード実技③		ライセンス検定		
4	前期スケートボード実技④		足裏センサー測定（1回/月）ライセンス検定		
5	前期スケートボード実技⑤		ライセンス検定検定		
6	前期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
7	前期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
8	前期スケートボード実技⑧		ライセンス検定		
9	前期スケートボード実技⑨		ライセンス検定		
10	前期スケートボード実技⑩		足裏センサー測定（1回/月）		
11	後期スケートボード実技①		ライセンス検定		
12	後期スケートボード実技②		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
13	後期スケートボード実技③		ライセンス検定		
14	後期スケートボード実技④		足裏センサー測定（1回/月）ライセンス検定		
15	後期スケートボード実技⑤		ライセンス検定検定		
16	後期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
17	後期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
18	後期スケートボード実技⑧		ライセンス検定		
19	後期スケートボード実技⑨		ライセンス検定		
20	後期スケートボード実技⑩		足裏センサー測定（1回/月）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピックコーチ			

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	イベントプランニング			方法	演習
担当教員	竹内 雄介		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科・スポーツビジネス学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	実際のイベント開催に向けて、企画の立案、イベント論、宣伝材料の作成（動画やチラシ）、集客、SNS運用を実践します。イベント開催後の報告や仕事につなげるところまでを学習します。				
学習目標（到達目標）	イベントの企画運営を通して、将来使える個人のスキルアップ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	独自作成資料・Adobeアプリケーション・Officeアプリケーション				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、イベント開催までの流れ		イベントや企画をより良いものにするために必要な知識やツールを学びます。イベント開催により学べること、得られることを学びます。		
2	イベント企画		イベントの企画をまとめます。イベント名、概要、定員、参加費、ゲスト、役割、予算、協賛後援、持ち物などを決めます。		
3	イベント企画、宣伝、コミュニケーション		実際のイベント開催に向けて準備を進め、その中で、SNSを活用した宣伝方法やコミュニケーションの拡散方法を学びます。		
4	Adobeアプリ、仕事でのパソコンの使い方、デザイン制作		Adobeアプリの種類と使い分け、仕事でのパソコンの使い方とデータの種類、デザインを作成するときに考えること、過程、作り方を学びます。		
5	illustratorを使った基本操作		illustratorを使用して、イベントロゴやフライヤー、ノベルティを作成します。		
6	イベント準備①		イベントの告知やノベルティの発注、協賛後援のお願いを行います。		
7	撮影		スマホまたは一眼カメラを使った撮影方法と設定を学び、実際に撮影します。		
8	Photoshop、lightroom、Premiereを使った基本操作		前回授業で撮影した写真や動画をPhotoshop、lightroom、Premiereで加工します。		
9	イベント準備②		イベントのリハーサルを行い、不足部分があれば改善します。		
10	反省と次の展開		イベントの反省と次に活かすための報告作業を行います。時間次第で、個人事業主、副業、トリプルワークの働き方、移住と働き方の選択肢について学びます。		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	LRFworksにて企画運営				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	イベント実践			方法	講義
担当教員	陸川 晃浩		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	40
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	イベント理論を活かし、企画書を具体的に作成し、9月のスケートイベント、12月（1月）にスノーボードイベント実施に向けて準備をしていく。（コロナ禍によるイベント実施が難しい場合、校内大会2月末の企画運営に向けて準備を行う）				
学習目標（到達目標）	イベント理論を活かし、企画書を具体的に作成し、9月にスケートイベント、12月（1月）にスノーボードイベント運営に向けて、イベント実践の準備をしていく。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	イベント企画書資料（オリジナルプリント）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スケートイベント企画 概要		9月のスケートイベントに向けて企画イメージ（9月27日）※6月28日（学校主催イベント運営）		
2	企画書の制作①		イベント名称、開催日、場所、目的、イベント内容、組織図		
3	企画書の制作②		協賛、後援、スケジュール、予算、レイアウト		
4	企画書の制作③		備品リスト、運営マニュアル、チラシ、申込用紙などの制作		
5	イベント運営の全体の流れ		募集開始、受付、イベント開催日、終了まで		
6	イベント役員の役割と配置		STAFFの役割と配置		
7	企画の最終打ち合わせ		スケジュールの確認、作業内容確認		
8	SNWイベント企画の概要		12月（1月）のスノーボードイベントに向けて企画をイメージ		
9	企画書制作①		イベント名称、開催日、場所、目的、イベント内容、組織図		
10	企画書制作②		協賛、後援、スケジュール、予算、レイアウト		
11	企画書制作③		備品リスト、運営マニュアル、チラシ、申込用紙などの制作		
12	企画書制作③		備品リスト、運営マニュアル、チラシ、申込用紙などの制作		
13	企画書制作③		備品リスト、運営マニュアル、チラシ、申込用紙などの制作		
14	企画書制作③		備品リスト、運営マニュアル、チラシ、申込用紙などの制作		
15	企画書制作③		備品リスト、運営マニュアル、チラシ、申込用紙などの制作		
16	イベント運営の全体の流れ		募集開始、受付、イベント開催日、終了まで		
17	イベント運営の全体の流れ		募集開始、受付、イベント開催日、終了まで		
18	企画の最終打ち合わせ		スケジュールの確認、作業内容確認		
19	企画の最終打ち合わせ		スケジュールの確認、作業内容確認		
20	企画の最終打ち合わせ		スケジュールの確認、作業内容確認		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴					

科目名	指導演習Ⅰ			方法	演習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	120時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートパーク開放時に、スケートボードインストラクター、パーク運営について必要な技術・知識を身につける				
学習目標 （到達目標）	JSA公認スクールインストラクター、JSA公認パーク運営インストラクター				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①		安全に留意し、実践的な演習を行う		
2	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②				
3	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③				
4	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④				
5	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤				
6	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥				
7	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦				
8	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑧				
9	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑨				
10	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑩				
11	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①				
12	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②				
13	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③				
14	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④				
15	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤				
16	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥				
17	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦				
18	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑧				
19	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑨				
20	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑩				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピックコーチ			

科目名	指導演習Ⅱ			方法	演習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	120時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートパーク開放時に、スケートボードインストラクター、パーク運営について必要な技術・知識を身につける				
学習目標 （到達目標）	JSA公認スクールインストラクター、JSA公認パーク運営インストラクター				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①		安全に留意し、実践的な演習を行う		
2	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②				
3	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③				
4	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④				
5	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤				
6	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥				
7	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦				
8	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑧				
9	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑨				
10	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑩				
11	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①				
12	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②				
13	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③				
14	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④				
15	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤				
16	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥				
17	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦				
18	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑧				
19	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑨				
20	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑩				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピックコーチ			

科目名	企業研修Ⅰ			方法	講義
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	18時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	概要：業界の最新情報や職業観を獲得する 目的：業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方：業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う				
学習目標 （到達目標）	スケートボード業界、ボードスポーツ分野の理解を深め、他者へ伝えられる能力を身につける				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	グローバルメーカー講話				
2	ショップ経営、起業				
3	訪問研修				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価 4 段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	企業研修Ⅱ			方法	講義
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	18時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概要：業界の最新情報や職業観を獲得する 目的：業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方：業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う				
学習目標 （到達目標）	スケートボード業界、ボードスポーツ分野の理解を深め、他者へ伝えられる能力を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	グローバルメーカー講話				
2	ショップ経営、起業				
3	訪問研修				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価 4 段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	スケートボード実習Ⅰ				方法	実習
担当教員		平野英樹・牛嶋彪・米山湊・小山内修平		実務授業の有無	有	
対象学科		スケートボード実習	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択		必修	単位数	一	時間数	96時間
授業形態		対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方		スケートボード業界の最新情報、技術を身につける。スケートボードデッキ制作、インストラクターとしての知識、技能を習得する。 実習場所：村上市スケートパーク				
学習目標 （到達目標）		スケートボード、アクションスポーツ業界を知り、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		JSF教則本				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	インストラクター講習、ライセンス検定概要			宿泊含む		
2	スケートボード科学スタッフ検定受検			宿泊含む		
3	スケートボードデッキ制作			宿泊含む		
4	JSAライセンス検定受検			宿泊含む		
5	NTC運営演習			宿泊含む		
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動				

科目名	スケートボード実習Ⅱ			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山漱・小山内修平		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード実習	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	96時間
授業形態	対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボード業界の最新情報、技術を身につける。スケートボードデッキ制作、インストラクターとしての知識、技能を習得する。 実習場所：村上市スケートパーク				
学習目標（到達目標）	スケートボード、アクションスポーツ業界を知り、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	JSF教則本				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インストラクター講習、ライセンス検定概要				
2	パークマネージャー検定受検				
3	スケートボードデッキ制作				
4	JSAライセンス検定受検				
5	NTC運営演習				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	日本スケートボーディング連盟にて活動				

科目名	スケートボード実習Ⅰ				方法	実習
担当教員		藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科		スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択		必修	単位数	一	時間数	84時間
授業形態		対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方		スケートボードを取り巻く環境について学ぶ スケートボードパーク運営・管理の知識・技術を習得する。				
学習目標 （到達目標）		スケートボードの視野を広げ、環境を整える。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボードパークの整備					
2	スケートボードパークの整備					
3	スケートボードパークの整備					
4	スケートボードアイテム制作					
5	スケートボードアイテム制作					
6	スケートボードアイテム制作					
7	スケートボードアイテム制作					
8	スケートボードアイテム制作					
9	スケートボードアイテム制作					
10	スケートボードパーク整備					
11	スケートボードパーク整備					
12	スケートボードパーク整備					
13	スケートボードパーク整備					
14	スケートボードパーク整備					
15						
16						
17						
18						
19						
20						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピック指導歴あり				

科目名	スケートボード実習Ⅱ				方法	実習
担当教員		藤沼 到		実務授業の有無	無	
対象学科		スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択		必修	単位数	一	時間数	84時間
授業形態		対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方		スケートボードを取り巻く環境について学ぶ スケートボードパーク運営・管理の知識・技術を習得する。				
学習目標 （到達目標）		スケートボードの視野を広げ、環境を整える。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボードパークの整備					
2	スケートボードパークの整備					
3	スケートボードパークの整備					
4	スケートボードアイテム制作					
5	スケートボードアイテム制作					
6	スケートボードアイテム制作					
7	スケートボードアイテム制作					
8	スケートボードアイテム制作					
9	スケートボードアイテム制作					
10	スケートボードパーク整備					
11	スケートボードパーク整備					
12	スケートボードパーク整備					
13	スケートボードパーク整備					
14	スケートボードパーク整備					
15						
16						
17						
18						
19						
20						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピック指導歴あり				

科目名	インターンシップⅠ			方法	実習
担当教員	大橋 一麻・田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	全学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	112時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	長期休業期間を利用しインターンシップを行う。事前に目的、準備、企業研究を行い参加する。業界理解を深めるだけでなく、就職観、社会性、必要なスキルを経験し進路決定に活かす。				
学習目標 (到達目標)	職業観、実践力を身につけ、業界への理解を深め進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		事前準備として参加動機書、学生調書の作成		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
6	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
7	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	インターンシップⅡ			方法	実習
担当教員	大橋 一麻・田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	112時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	長期休業期間を利用しインターンシップを行う。事前に目的、準備、企業研究を行い参加する。業界理解を深めるだけでなく、就職観、社会性、必要なスキルを経験し進路決定に活かす。				
学習目標 (到達目標)	職業観、実践力を身につけ、業界への理解を深め進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		事前準備として参加動機書、学生調書の作成		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
6	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
7	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	アウトドア実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	概要：多種目のボードスポーツ、アウトドアスポーツを学ぶ 目的：業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方：業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う				
学習目標 （到達目標）	ボードスポーツに親しみ、視野を広げ知識を深める				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ウェイクサーフィン、SUP				
2	スノーボード、スノースケート				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	アウトドア実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	概要：多種目のボードスポーツ、アウトドアスポーツを学ぶ 目的：業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方：業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う				
学習目標 （到達目標）	ボードスポーツに親しみ、視野を広げ知識を深める				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ウェイクサーフィン、SUP				
2	スノーボード、スノースケート				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	イベント実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山湊・小山内修平		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	80時間
授業形態	対面授業実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	大会やイベントの運営スタッフとして実習を行う。大会の運営方法を学び、実践力を身につける。主催者側と連携、打合せを行いながら進める。				
学習目標 (到達目標)	イベントの企画、運営に関する知識・技能を習得する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	X-Games運営スタッフ				
2	JSF主催大会運営スタッフ		2大会		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価 4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	日本スケートボーディング連盟にて活動				

科目名	イベント実習Ⅱ				方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山湊・小山内修平			実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科		対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修		単位数	一	時間数	80時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施					
授業概要、目的、授業の進め方	大会やイベントの運営スタッフとして実習を行う。大会の運営方法を学び、実践力を身につける。主催者側と連携、打合せを行いながら進める。					
学習目標 (到達目標)	イベントの企画、運営に関する知識・技能を習得する					
テキスト・教材・参考図書・その他資料						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	X-Games運営スタッフ			事前指導		
2	JSF主催大会運営スタッフ					
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動				

科目名	日本語コミュニケーション			方法	講義
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1	開講時期	特別
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	12
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	コミュニケーション基礎を学び、インターンシップ、就職活動に必要な知識・技術の獲得を行い コミュニケーション検定初級取得に向けて勉強を行う。 聞く、話すことの重要性理解、ビジネス分野において必要な言葉遣い、作法を含めた理論編 電話応対やビジネスマナーなどの実践編の2部構成にて授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	コミュニケーション基礎能力の構築 コミュニケーション検定初級合格100%				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	コミュニケーション検定 初級対策テキスト コミュニケーション技法				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションを考える、聞く力、話す力、来客応対		コミュニケーション検定初級対策テキストP2～P43		
2	電話応対、アポイントメント、接客クレーム対応、模擬テスト①		コミュニケーション検定初級対策テキストP44～83		
3	模擬テスト②				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考查60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			テキストの内容を把握していること。		
実務経験教員の経歴					

科目名	社会人常識マナー				方法	講義
担当教員	福山 泰子			実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	特別	
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	12	
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施					
授業概要、目的、授業の進め方	概 要 社会人としてのビジネスマナー習得 目 的 社会人常識マナー検定3級合格。 進め方 テキストと過去問題を使用。					
学習目標 （到達目標）	社会人常識マナー検定3級取得					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	全国経理教育協会 社会人常識マナー検定3級、過去問題集					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	検定対策1			テキスト、過去問のポイント解説		
2	検定対策2			テキスト、過去問のポイント解説		
3	検定対策3			テキスト、過去問のポイント解説		
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
考查60％（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40％（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				テキストの内容を把握していること。		
実務経験教員の経歴	18年販売促進コーディネーターの実績、10年リテールマーケティング検定対策(3級2級) 講師としての実績あり。					